

## LPガスCP速報(2020年11月積)

1. 11月積みサウジアラムコLPガスCP  
 プロパン **430**  $\text{ドル}$  (前月比+55  $\text{ドル}$ )  
 ブタン **440**  $\text{ドル}$  (前月比+60  $\text{ドル}$ )

### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が堅調に推移するなか、LPガス需要は、需要期を迎え、インド、中国の引き合いが強まるとともに、米国ハリケーンの影響やパナマ運河の渋滞による供給懸念もあり市況は上昇した。極東CFR市況は、第3週には一時プロパン465  $\text{ドル}$ 、ブタン475  $\text{ドル}$ まで急騰したが、第4週にはプロパン440  $\text{ドル}$ 、ブタン450  $\text{ドル}$ どころに落ち着いた。FOB市況もアジアの需要増と米国の悪天候による荷役遅延等によるタイト感から続騰している。

全米プロパンは、輸出が堅調、需要も回復傾向で、全米プロパン在庫は減少したものの5年平均レンジの上方に張り付いている(グラフ②)。米モンベルビュープロパンスポット価格は堅調に推移、原油市況にも支えられ前月比13  $\text{ドル}$ 上昇の270  $\text{ドル/ト}$ どころ(グラフ①)。

フレート市況は堅調に推移。インド、中国需要で中東積みの備船需要活発化、米国積みはハリケーンの影響もあり船舶需給が引き締まった。月間平均では前月比5  $\text{ドル}$ の反騰となった。

ナフサは原油価格に見合いの推移で、月間平均は394  $\text{ドル}$ どころで、前月比1  $\text{ドル}$ の下落。

バンカーオイルも原油市況に追随した上げ下げとなったが堅調に推移。シンガポールIFO380は月間平均で前月比9  $\text{ドル}$ 高の279  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同1  $\text{ドル}$ 上昇の345  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は66  $\text{ドル}$ に縮小した。

11月CPは前年同月比プロパン横這い、ブタン5  $\text{ドル}$ 安。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン22ポイント、ブタン24ポイントそれぞれ上昇、前年同月比ではプロパ45ポイント、ブタン46ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	55.4	56.6	63.2	62.7	59.5
CP先物指標：P	375	410	420	430	409
CP先物指標：B	385	420	430	445	420

### ② 原油市況等

原油市況をみると、10月WTIは38  $\text{ドル}$ 台でスタートしたが、米大統領選を控え追加景気対策協議合意への期待と失望で金融市場は一喜一憂、40  $\text{ドル}$ を挟んだ狭いレンジで推移、欧州を中心に新型コロナ感染再流行で移動制限、飲食業の休業要請措置もとられ需要下振れ懸念が上値を重くする展開が続いた。OPECプラスは協調減産規模の継続にも言及したが、リビアの輸出再開で供給過剰への警戒感も強い。米石油リグ稼働数は増加に転じ(前年比70%減まで回復)、原油生産量はハリケーンの影響から一時1,000万b/dを下回ったものの、1,100万b/d前後まで回復した。製油所稼働率は低水準が続いているが、輸入減と輸出増で在庫は高水準ながら減少傾向。石油需要はガソリンシーズンが終了、留出油も含め回復のペースは鈍く、ジェット燃料は前年比4割以上の減少が続いている。

一方、CFTC発表の大口投機玉の買越残高は20日時点では490千枚、前月末から28千枚増加。買い建玉は66万枚で前末日18千枚増加。株価を中心として金融市場は過剰流動性でバブルの様相だが、欧米の新型コロナの再流行の影響で調整局面も現れ、米大統領選の混乱で、ボラティリティが高くなりそうな気配、エネルギー市場への影響も避けられなくなりそうだ。

○10月積みアラビアン・ライト(10月1~28日までの想定)は40.50  $\text{ドル}$ (前月比-1.94  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン 332.06  $\text{ドル/ト}$  ブタン 327.50  $\text{ドル/ト}$

AL比 プロパン 129.50% ブタン 134.35%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

